

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 23 年度】

[追跡評価]

	研究課題名	研究の概要及びその成果と活用	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
5	放置竹林の竹を用いた竹繊維強化亜グリーン複合材料の開発 ----- 材料技術部 ----- 平成 18～19 年度 (2 年間)	放置竹林を用い、ガラス繊維の代替となる微細竹繊維を経済的に取り出し、環境負荷の低い竹繊維製造技術の確立と竹繊維高充てん複合材料の製造技術を確立した。この成果を基に、研究参画企業において、射出成形による製品化の検討を行い、竹繊維複合材料を用いたエコ製品の開発につながった。	【達成】 ・技術の製品化、実用化まで達しており、研究としては成果が達成されている。 ・材料開発としての成果は大である。 ・公設試験研究機関として取り組むにふさわしい重要な研究である。	・竹が入った環境にやさしい材料というだけでは、成果の更なる普及、展開は厳しいと考える。竹パウダーの特徴を活かした新規材料の開発に期待する。 ・輸送コスト、人件費を含めたトータルで環境負荷の問題を解決し、社会システムとなるよう発展させてほしい。 ・産業として成功させる行政施策が期待される。 ・用途開発に取り組み、広く普及、活用されることを期待する。
6	キトサンを用いた新規生分解材料の開発 ----- ものづくり開発部 ----- 平成 19 年度 (1 年間)	塩により溶解され、可塑化されたキトサン組成物の特性を把握し、生分解性材料として利用できる分野の探索を行うことを目指した研究。研究により得られた組成物は、高い抗菌活性を活かした用途、例えば、抗菌性のフィルターや塗料への展開が有望と考えており、高分子学会、セルロース学会で口頭発表を行うとともに論文発表も実施。	【達成】 ・企業保有技術の発展で、論文発表され、学術的成果はある。 ・塩を含んだ新素材の難燃性は確認しているが、生分解性までは確認されているのか？材料として実用化する場合は、生分解であることは欠点になる。	・コストに見合う応用分野を見つけ、実用化を進めてほしい。 ・企業との共同研究に期待する。 ・バイオマス由来の耐久性を持つ新素材の開発も重要と考えられる。

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 23 年度】

[追跡評価]

	研究課題名	研究の概要及びその成果と活用	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
7	感情移入できるロボットのインタラクションデザインに関する研究 ものづくり開発部 平成 19 度 (1 年間)	見る人の情動を誘う重要な特徴は、四肢の動きではなく、体幹の動きであるとする仮説に基づき、動作特徴を再現するロボットの制作を目指した研究。その後設計に改良を加え、ファッションモデルの動きをモチーフとして動作特徴を再現する人型ロボットのプロトタイプを制作。そのシステムの一部を用いて、東京のファッションビルのブランドショップなどでキャラクター人形として導入されている。	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の展開を考えていただきたい。 ・社会的性インパクトのある研究成果を上げている。 ・ロボットを通常と異なる視点からとらえた面白い技術研究である。地場産業の支援・資源の有効活用に必要な研究であり、公的研究機関として行うべき研究である。 ・神戸市のロボット工房にも展示され、地域振興、教育活動の資源として貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低コスト版を制作し、広く活用してもらえようしてほしい。 ・動くマネキン以外の用途は考えられないのか。人体の動きを再現できるということで、医療でのリハビリやスポーツトレーニングなど身体を動かす助けにつながる用途への可能性があるように思える。 ・動くマネキンとしては、低価格化とデザインの充実を実現し、広く普及されることを期待する。 ・特徴をうまく利用し、商品化を目指した用途開発を考えてほしい。